

八芳園が“無常庵”を製作し、組立式茶室「和」を発信

代表的な日本文化の一つ“茶道”をどこでも披露できる組立式の茶室を使ったイベントが5月5日、「銀座 蔦屋書店」のEVENTSPACEで行われた。

中国茶道家の岩咲ナオコ氏と篠笛奏者・佐藤和哉氏のコラボレーションによる「銀座 蔦屋書店茶会～清・香・奏・韻～」で、中国茶の香りと味を表す笛の演奏の中で茶芸と茶の味を楽しんでもらおうという趣旨。

そこで使われた茶室が、八芳園が所有する「無常庵」。

九州の大川家具職人の伝統技術によって3年ほど前に製作した組立・可搬式の茶室で、職人技と“茶道”という日本文化をセットで世界に発信しようとの思い結集したもの。

すでに台湾やシンガポールのイベントに出展し日本文化のPRに貢献している。

今回の出展は単独では国内初。

なお、「無常庵」の製作を機に、八芳園と大川市との間に昨年、包括的連携協定が結ばれたという。

東京室内装飾新聞(第622号)より引用